

熊本県博物館ネットワークセンターだより

熊本の自然と文化

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター

2023 年 10 月 24 日

No. 56



イベント情報（令和 5 年 10 月～令和 5 年 12 月）

企画展

会場：熊本県博物館ネットワークセンター

入場無料

第 3 回企画展「バックヤードに眠る日本の鉱物」

ネットワークセンターが所蔵している、職員が採集したり、大学や高校、個人などから寄贈されたりした5800点以上の鉱物標本の中から、日本産の鉱物標本をお見せします。

○開催期間 令和 5 年 10 月 11 日（水）～12 月 10 日（日）



孔雀石



輝安鉱

第 4 回企画展「ちょっと昔のくらし探検」

小学校 3 年生の社会科で学ぶ道具を中心に、懐かしい暮らしの様子や仕事の道具を紹介します。

○開催期間 令和 5 年 12 月 19 日（火）～令和 6 年 2 月 18 日（日）



湯たんぽ



昨年度の展示風景

くまもとキッズミュージアム i n 人吉

○開催日 令和 6 年 1 月 21 日（日）

○時 間 午前 10 時～午後 4 時 10 分

○場 所 人吉カルチャーパレス



県内の博物館や資料館が集まって、子どもたちが自然や伝統文化を学ぶ体験学習を行います。化石レプリカ作り、古銭レプリカ作り、草木染め、貝殻クラフトなど、さまざまなプログラムを予定しています。参加申込制ですが、詳細は、案内チラシまたは、熊本県博物館ネットワークセンターのホームページなどでお知らせします。

フィールドミュージアムへ飛びだそう！

プログラム	場所	日時	定員	内容	申込期間
落ち葉図鑑を作ろう	上天草市 天草ビジターセンター	12 月 3 日（日） 10:00～12:00	20 名	落ち葉を集めて世界に一つの落ち葉図鑑を作ります。	10 月 26 日～ 11 月 16 日
水辺の冬鳥を観察しよう	熊本市 江津湖	12 月 23 日（土） 10:00～12:00	20 名	カモ類など、江津湖にやってくる鳥を観察します。	11 月 16 日～ 12 月 7 日

対象：幼児～一般 ※小学校 3 年生以下は保護者同伴

申込み方法：熊本県・市町村共同システム「電子申請サービス」または、往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望プログラム名をご記入の上、申し込みください。申込み多数の場合は抽選で参加者を決定します。右側の QR コードからも申し込みができます。

（往復はがきで申込みの場合は、返信用はがきに住所・氏名を記入してください。締切必着。）



記載されている行事は、感染症や災害等の影響により日程や募集人員が変更になる場合があります。詳細は当センターにお問い合わせいただくか、ホームページで御確認ください。

No. 289
動物

カケス *Garrulus glandarius* (カラス科)

カケス(図1・2)は、日本では北海道から屋久島に生息しているカラス科の一種で、熊本県内では留^{りゅうちゅう}鳥として、丘陵地から山地にかけての森や林で見られます。雑食性ですが、主にドングリなどの木の实を食べ、学名の *glandarius* も「ドングリ」を意味しています。

本種は「ジェー ジェー」としわがれた大きな声でよく鳴きますが、他の鳥の鳴き真似も得意で、特にサシバなどのタカ類の声をよく真似ます。警戒心が強くてなかなか姿を見せないため、声だけを聞いて騙されることも少なくありません。

図1の剥製は熊本県立第一高校より寄贈されたもので、ラベルには「阿蘇郡菅尾 1714 年」と記されていますが、数字は恐らく誤記で、同時に寄贈された他の鳥類剥製と同じ 1900 年代初期に、現在の上益城郡山都町菅尾において採集或いは拾得されたものと思われます。他の剥製の採集・拾得地も「カ合村」や「黒石原」など県内の地名であることから、これらの剥製群は標本業者からの購入品ではなく、教員などの学校関係者や識者によって教材用に作成されたものであると考えられます。(中 蘭 洋行)



図1 カケス剥製(山都町産)



図2 カケス生態写真(八代市泉町)

No. 290
植物

エビネ *Calanthe discolor* (ラン科)

エビネは暖温帯に分布するラン科植物で、生育環境は山地の常緑樹林の林床などの比較的身近な環境です。しかし、生育状況は厳しく、レッドデータブックくまもと 2019 では絶滅危惧 II 類 (VU) に選定されています。かつてのエビネ栽培ブームにおける採取による激減と、ブーム後の今も続く採取圧が原因と言われています(熊本県希少野生動植物検討委員会 2019)。

地下茎が球状でいくつか連なる様子がエビに似ていることが、和名エビネ(海老根)の由来とされています。また、エビネの花は、3枚の花弁のうち左右に位置する

2枚と萼片3枚が暗褐色、残る一枚の花弁が白色で、2色の対比が映える美しい花です(図1)。このことが学名の種小名 *discolor*(2色からなる)の由来となっています。

写真の標本(図2)は、ラベルの見出しに Ex Herb.

Tomitaro Makino とあり、牧野富太郎が収集した標本の一つと考えられます。ただ、採集者の記述がなく牧野本人の採集によるものかは不明です。この標本は、熊本大学から受け入れた標本の一つです。当時、熊本大学の人物が牧野富太郎から標本を購入し熊本大学の標本庫に収蔵したものと推察されます。約 120 年前の 1901 年に武蔵(現在の東京都、埼玉県、神奈川県にかかる地域)で採集された古い標本で損傷もみられますが、標本害虫の除去や清掃を施した上で収蔵しています。(前田 哲弥)



図2 エビネの標本



図1 エビネの花
(宇城市)

No. 291
歴史

布告写（江藤政光所蔵資料）

本資料には、明治4年（1871）や同5年（1872）に出された①門衛掟、②辞令等の布告が
大津俊太郎によって書き写されています。

①の内容は、医学所役間から出された門衛に関する掟書です。この頃の医学所は明治4
年の廃藩置県によって熊本藩の古城医学所から熊本県の官立医学校となりました。掟書
は、10ヶ条からなり、平日は第7字（日曜は第8字）に小門を閉門し、大門については暮
には閉門するとあります。門衛は、夕七時半時（16時頃）より門に詰め、外出者に名札を
渡し、入門の時に名前を照合しました。その際に役間からの締め方の命令があった場合
は、名札の残りを帳面に記し、直ぐに達するように求め、門限過ぎに帰寮した者について
は、何時頃に帰ってきたのかを記録し、翌日連絡
するようにと指示しています。末尾には、洋学校
や両教師館へ用向きの為や県庁の官員または
荒仕子（使用人）などの出入についても取調の上
で許可するように定めています。

②には、応接方を勤めていた大津俊太郎・小山
寅二連名の辞令が含まれており、さらに門衛を
兼勤するようにと命ぜられています。名前があ
る大津俊太郎は、「大津俊太郎創傷部位検査書」

（たより No. 43）で紹介した人物です。本資料によって明治7年（1874）10月から熊本鎮台病院で勤務する以
前の大津の履歴や明治初期に出された医学所に関する布告を知ることが出来ます。（堤 将太）

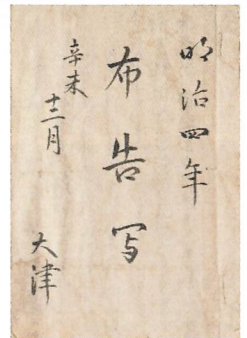
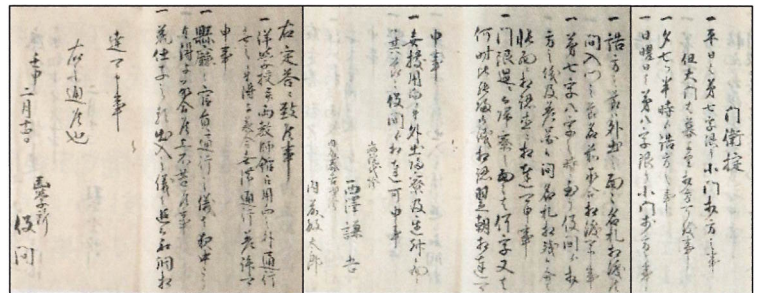


図1 布告写



③ ② ①
図2 門衛定

No. 292
地学

自然硫黄 Sulphur

活動している火山や地熱地帯の近くに行くと、卵の腐ったよう
なおいがあることがあります。このにおいはよく「硫黄のにおい」
と言われますが、実は有毒な硫化水素のにおいです。この硫化
水素から作られる鉱物があります。それが硫黄（自然硫黄）です。

火山や地熱地帯の地下にあるマグマには重量の数%～10%の水
が含まれています。そして、マグマが冷え固まるとき、この水が火
山ガスとして放出され、地上に到達したら噴気孔から空気中に噴
き出します。このとき、噴気孔では火山ガスから液体の状態をほ
とんど経ずに固体が作られる昇華が起これ、火山ガスの温度や含
まれる成分によって様々な鉱物が作られます。図1は阿蘇郡南小
国町にあるすずめ地獄の噴気孔です。噴気孔周辺の岩石に黄色い
自然硫黄の塊が付いています。一帯はかすかに「硫黄のにおい」
がしており、硫化水素を含む火山ガスが噴き出しています。

図2は阿蘇郡南阿蘇村にある地獄温泉の噴気孔でできた自然硫
黄です。細長く伸びた八面体の結晶が集まっています。結晶の成
長速度が早いので、結晶面にくぼみのある骸晶（がいしょう）ができています。

自然硫黄のできる環境は火山や地熱地帯だけではなく、火山の多い日本では、こういった場所で多く見られます。

（廣田 志乃）



図1 すずめ地獄の噴気孔にできた自然硫黄

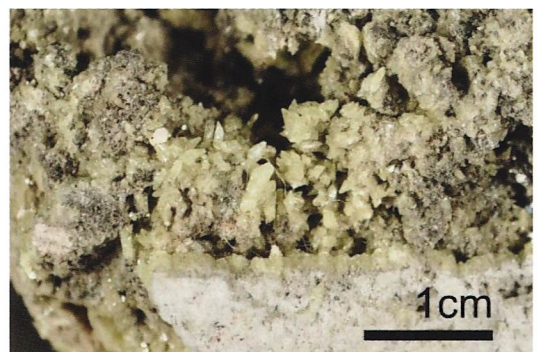


図2 自然硫黄の結晶（地獄温泉）

No. 293

民俗

ウマウリ・ウマツクリのわら馬

正月や小正月には、年神様の代理人として家々を訪れる若者や子どもたちに、酒や餅などを振る舞い、もてなすことで霊力をもらい、無病息災や豊作豊漁、家の繁栄などを願う行事が各地で行われています。各家を訪れる若者や子どもたちは、祝福の言葉を述べたり、縁起物を配ったりします。県内では、御札や御幣、注連飾りなどのほか、阿蘇地方では草履や牛馬の腹帯、火吹き竹などの日用品、天草地方では農村は稲わらで作った牛、漁村は木製の舟、菊池地方では稲わらで作ったわら馬が配られます。

図1は、菊池市の中片地区に伝わるウマウリ行事で配られるわら馬です。1月14日の晩、男の子たちが集落の各家をまわり、「馬売りに来た」と言ってこの馬をお盆に載せて渡し、お菓子や餅、ミカンなどをもらいます(図2)。このわら馬を各家庭では神棚や床の間に節分まで飾り、そのあとは川に流したり、実のなる木の枝にかけたりします。

図3は、菊池市の前川地区で行われるウマツクリ行事で配られるわら馬です。1月11日に男の子たちが作っていましたが、現在は1月2日に大人も一緒に作ります。このわら馬と大根に松竹梅の枝を挿したものを盆にのせて、各家庭に配ります(図4)。かつては牛馬を飼っている家だけに配っていたそうです。馬がくわえているのは銭の孔に通して束にする銭縄で、お金が貯まるようにという願いが込められています。この馬は神棚にしばらく飾った後、梅の木などに掛けて実りが良くなるように祈ります。



図1 中片地区のウマウリのわら馬



図2 中片地区のウマウリ行事
(2008年撮影)



図3 前川地区のウマツクリ
のわら馬



図4 前川地区のウマツクリ行事
(2008年撮影)

梅の木などに掛けて実りが良くなるように祈ります。

ウマウリ・ウマツクリのわら馬には牛馬の健康や安全を願う意味が込められているようですが、古来より馬は神霊の乗り物とする信仰があり、年神様を迎え送るという意味もあるのかもしれません。
(迫田 久美子)

熊本県博物館ネットワークセンター

ISIL JP-2004104

〒869-0524 宇城市松橋町豊福 1695

TEL: 0964-34-3301 FAX: 0964-34-3302

E-mail: hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

HP: <https://kumamoto-museum.net/kmnc/>

[公共交通機関]

○九州産交バス

松橋バスターミナルより宮原経由
八代産交行き「希望の里入口」下車

○JR

松橋駅より約3km

